



霧島酒造株式会社
霧島ホールディングス株式会社

Environmental Report

環境報告書2023



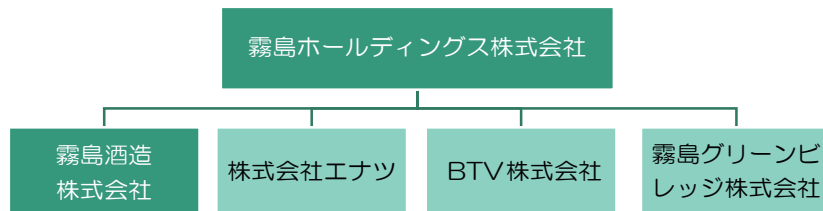
CONTENTS

会社概要・事業活動の概要・編集方針.....	1
トップメッセージ.....	2
4つの100%へのこだわり ～地域の自然に支えられた焼酎造り～	3
焼酎の製造販売に関する主なサプライチェーン.....	4
ステークホルダーとのコミュニケーション.....	5
持続可能な焼酎造りを目指して.....	6
環境方針・環境面における重要課題と行動計画	7
霧島環境アクション2030	8
気候変動対策	
2030年度までに工場・事務所からのCO ₂ 排出量実質ゼロを実現.....	9
製品ライフサイクル全体のCO ₂ 排出量の削減.....	11
自然環境保全	
森林保全活動による森林の多面的機能の活用	14
地下水資源の有効利用.....	15
環境マネジメントシステム.....	16
環境データ・参考.....	17

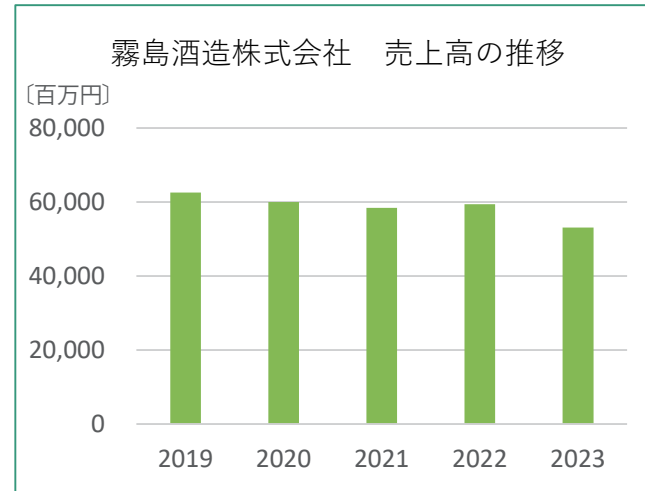
会社概要

会社名	霧島酒造株式会社 KIRISHIMA SHUZO CO., LTD.
創業	1916年（大正5年）5月
設立	2014年（平成26年）3月 （2015年（平成27年）4月、霧島ホールディングス株式会社の完全子会社になりました。）
本社所在地	宮崎県都城市下川東4丁目28号1番
工場	本社工場・本社増設工場 志比田工場・志比田増設工場・志比田第二増設工場
業務内容	酒類の製造および販売、レストラン事業、廃棄物処理業
会社名	霧島ホールディングス株式会社 KIRISHIMA HOLDINGS CO., LTD.
設立	1949年（昭和24年）4月 2015年（平成27年）4月 商号変更
本社所在地	宮崎県都城市下川東4丁目28号1番

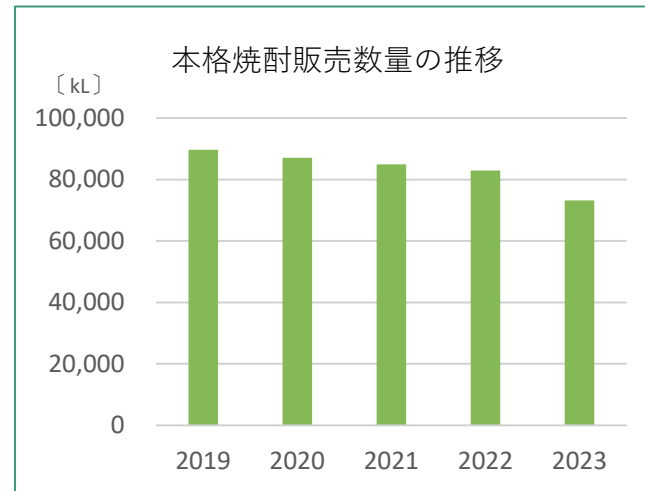
グループ会社概要



事業活動の概要



※2023年度より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用した売上高を記載しております。



編集方針

報告対象組織

霧島酒造株式会社

霧島ホールディングス株式会社

※一部霧島ホールディングス株式会社が算定範囲に含まれない内容があり、その場合は明示しています。

報告対象期間

2023年度（2023年4月～2024年3月）

必要に応じて過去の推移データを掲載しています。

参考ガイドライン

環境省 環境報告ガイドライン（2018年版）を一部参考にしました。

データについて

本報告書は第三者検証は受けていません。全てのデータは自社調べです。

お問い合わせ先

霧島酒造株式会社 お客様相談室

TEL：0986-22-8066

[受付時間]9:00-17:00

（土・日・祝日・年末年始・夏季休業を除く）

トップメッセージ



霧島酒造株式会社 代表取締役社長
江夏 順行(えなつ よりゆき)

霧島酒造の本格焼酎は、シンボルである霧島山周辺地域の自然の恵みを結集して造られる農産加工品であります。創業者江夏吉助による大正5年の初蔵出しから百有余年。この先も、高品質でおいしい焼酎を造り、お客様にときめきを感じていただく会社であり続けるためには、私たちが「100%へのこだわり」として掲げる、原料のさつまいも、米、水を育む源となる地域の自然環境を大切に守り続けていかねばなりません。

持続可能な焼酎造りの実現のため、私たちは「2030年度までに工場・事務所のCO₂排出量を実質ゼロにすること」を2021年に宣言しました。この宣言の内容を含む気候変動対策と、これまでも継続してきた自然環境保全の取り組みをさらに活性化させるため、アクションプラン「霧島環境アクション2030」を策定し、環境負荷低減と環境への寄与の動きをより一層加速させています。エネルギーのさらなる有効利用など社内における取り組みはもちろん、ステークホルダーの方々にもこれまで以上に協力いただきながら、取り組みを推進させている最中であります。

焼酎を含む日本の伝統的な酒造りは、地域に根ざした重要な無形文化財であります。私たちはある意味では、文化をつくっている会社とも言えるのです。ここ都城の地でローカルティにこだわる日本型サステナブル企業を目指すと同時に、世界課題にも対峙しようとしている霧島酒造は、その独自性で新たなブランド価値を連続と紡いでいくことになるでしょう。そのような「ミライ霧島」が生み出す焼酎文化で、お客様に「ときめき」を感じていただき、お客様をもっと幸せにすること。それが私の本望であります。



霧島酒造株式会社 代表取締役専務
江夏 拓三(えなつ たくぞう)

私たち霧島酒造が居を構える宮崎県都城は、芋焼酎を造るための資源が十二分にそろった最適な環境です。原料を作ってくださいの地元のさつまいも生産農家は1200軒以上。たくさんの方に支えられてできた芋焼酎ですので、副産物であっても、焼酎粕まで含めてすべて宝なんです。入社した40年以上前から、私はそう社内に訴え続けてきました。

飼料化や肥料化などさまざまな方法で焼酎粕の有効利用に取り組んできた私たちは、2006年、ようやく鹿島建設と共同開発したメタン発酵システム「メタクレス」による焼酎粕リサイクルにたどり着き、2014年にはサツマイモ発電事業を開始するなど、業界内でもいち早く環境への取り組みを行ってまいりました。しかし、今や環境問題への対応は企業にとって当たり前となっている時代。世界が動き出しました。新エネルギーの開発や環境関連の新事業、新制度など、めまぐるしく情勢は変動しています。

その中で、霧島酒造も地球にやさしい企業であり続けるために、2030年度までの工場・事務所のCO₂排出量実質ゼロや全社用車の電動化を宣言しました。この難題の解決のために、社内でも部署横断で解決に向けて取り組み始めるとともに、他社とのコラボレーションで、たくさんのワクワクするアイデアが起り始めています。

持続可能な焼酎造りのためには、ダイナミックな考え方で、社会に尽くし、地球に尽くし、人にやさしくある会社を目指していかなければなりません。霧島酒造はそのような新しいアクションを、今後も起こし続けてまいります。

4つの100%へのこだわり ～地域の自然に支えられた焼酎造り～

私たちは、さつまいもや米、水など、地元宮崎県都城市を中心とした地域一帯の自然の恵みを受けて焼酎造りを行っています。地域の豊かな自然への感謝の想いを原動力に、「人と地球にやさしい心豊かな企業をつくります」「地域に根ざし、地域と共に発展する企業をつくります」という経営方針を掲げて、持続可能な焼酎造りに取り組んでいます。



九州産さつまいも100% 九州のシラス台地が育む恵み

火山灰土壌で水はけのよい九州のシラス台地は、さつまいもの栽培に適しています。

原料のさつまいもは、シラス台地がまたがる宮崎県・鹿児島県を中心とした、九州産のものを100%使用。その栽培面積は3000haにおよびます。

1200軒以上の生産農家に支えられ、私たちは焼酎造りを行うことができます。



国産米100% 国産の米で造る麴

芋焼酎造りにおいて米を使用するのは、麴を造るため。

麴菌の目に見えない働きによって、焼酎造りは支えられています。

より安心安全な焼酎をお届けするため、麴造りに用いる米は、国産米100%にこだわっています。そのうちおよそ2分の1は地元宮崎県産米です。



キリシマレッカスイ

霧島裂罅水100% 都城盆地に蓄えられたおいしさの源泉

霧島酒造で造る全ての商品の味を支える水は、霧島裂罅水100%にこだわっています。

霧島裂罅水とは、1955年（昭和30年）に掘り当てた、都城盆地の地下岩盤の割れ目に蓄えられた清冽な地下水。

霧島連山に降った雨が、シラス層や火山灰土壌を通りながら数十年の歳月をかけて自然とろ過され、地下深くに蓄えられた水です。適度なミネラルを含み、酵母菌の発酵に最適です。



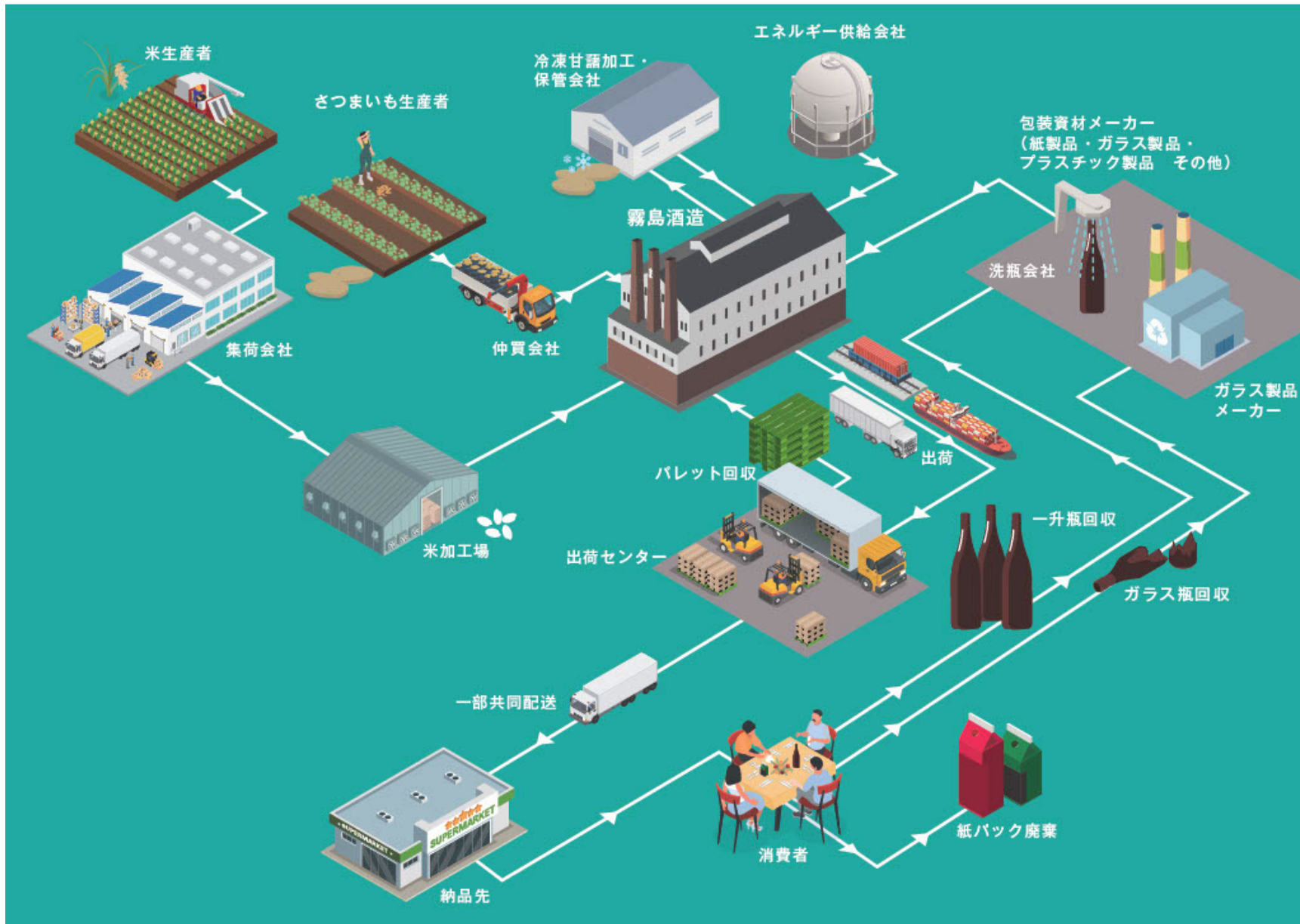
自社工場生産100% 地元・都城で造る焼酎

おいしい焼酎を安定的にお届けするためには、霧島裂罅水が取水でき、さつまいもや米の産地に近いことが必須条件。

私たちは創業の地である、地元・都城の地ですべての焼酎を造ることにこだわっています。

本社を置く下川東地区と志比田地区に2つの製造場があり、その中に5つの工場をもっています。すべて合わせると、1日あたり、一升瓶（アルコール分25%）換算で、約20万本分の生産が可能です。

焼酎の製造販売に関する主なサプライチェーン



ステークホルダーとのコミュニケーション

当社の主なステークホルダーとのコミュニケーションは以下の通りです。

ステークホルダー	環境に関する課題・期待	コミュニケーション方法
お客様・お取引先	製品の環境配慮 当社の環境活動の情報発信	広報活動（霧島酒造ウェブサイト・SNS・工場見学・マスメディア対応） お客様相談室 商談、店舗・飲食店訪問
サプライヤー	原材料製造・輸送保管時の温室効果ガス排出量の把握および削減 工事や搬入・搬出時の騒音振動 廃棄物の適正処分	意見交換会 監査・商談
さつまいも生産者 仲買会社	農薬・化学肥料の適正使用 サツマイモ基腐病の対策	甘藷会議（2回/年）・意見交換会 生産者巡回・栽培履歴の確認 健全なさつまいも苗の供給
冷凍甘藷加工・保管会社	芋くずの有効利用	冷凍甘藷会議（2回/年） 監査・商談 芋くずの受入
包装資材メーカー	環境配慮型包装資材の開発	意見交換会
従業員・従業員家族	環境活動の理解および推進 自然に親しむ機会の提供	社内報 委員会活動 「霧島くつろぎの森」イベント
地域社会	事業活動による地域環境への影響 当社の環境活動の情報発信 環境教育	苦情・お問い合わせへの対応 自社イベントの開催 社外イベントへの参加 工場見学 環境教室の開催
自治体・行政	関連法規制の遵守 地域課題の解決	必要な報告・届出 宮崎県環境審議会

霧島さつまいも種苗生産センター「イモテラス」の稼働

2023年9月、霧島さつまいも種苗生産センター「イモテラス」が稼働しました。当施設は種苗の段階における「サツマイモ基腐病」の拡大防止のほか、さつまいもの研究開発を目的とした施設です。菌やウイルスが検出されない茎頂を切り出して培養した苗を育成し、健全なさつまいも苗を生産農家の皆さまへ供給していくことが主な任務です。



環境教室・環境活動PR

近隣の学校を訪れ、職業講話の一環として環境教室を行ったり、地域のイベントに参加して当社の環境活動についてのPRを行ったりしています。



持続可能な焼酎造りを目指して

さつまいもは宝、さつまいもから生まれた焼酎粕も宝。

霧島酒造の循環型の焼酎造りは、この考え方に端を発しています。

2021年には、持続可能な焼酎造りに向けた全体構想を『KIRISHIMA SATSUMAIMO CYCLE～さつまいもを、エネルギーに。～』と名付けて発表しました。

こちらのイラストは、さつまいもを中心とした自然の恵みを有効利用しながら、地域の皆様にワクワクドキドキしていただける体験として還元し、自然が持つエネルギーが形を変えて地域を循環していく様子を表現したものです。

この全体構想には社会や地域への様々な貢献を含みますが、この報告書においては「環境」に関して報告いたします。



環境方針

持続可能な焼酎造りの全体構想『KIRISHIMA SATSUMAIMO CYCLE～さつまいもを、エネルギーに。～』で描くビジョンの実現に向け、下記の環境方針のもと、環境活動に取り組んでいます。

環境方針

私たちは、水やさつまいもなど、自然の恵みを享受して事業活動を行っています。その恵みを無駄にすることなく、自然環境と調和し、地域社会と共生することが持続可能な社会の実現に繋がると信じています。

「環境問題」は私たちの経営における最重要課題のひとつです。持続可能な焼酎造りの全体構想『KIRISHIMA SATSUMAIMO CYCLE～さつまいもを、エネルギーに。～』のもと、この環境方針を定め、次世代に引き継げる豊かな自然環境への責任を果たしてまいります。

- ① 関連法規制並びに同意した協定等を遵守します。
- ② 焼酎粕の有効利用をはじめとする再利用、再資源化、省資源による資源の循環、製品ライフサイクルを考慮に入れた温室効果ガスの排出削減に努めます。
- ③ 環境汚染の予防、地下水の保全に努め、地域の森林保全に貢献します。
- ④ 環境活動に関する積極的な情報発信に努め、広く社会とのコミュニケーションを図ります。
- ⑤ 環境マネジメントシステムの継続的改善および「霧島環境アクション2030」の実現により、環境パフォーマンスの向上に努めます。

2023年4月1日

霧島ホールディングス株式会社及び霧島酒造株式会社
代表取締役社長 江夏 順行

環境面における重要課題と行動計画

『KIRISHIMA SATSUMAIMO CYCLE～さつまいもを、エネルギーに。～』の実現に向け、全社組織である環境管理委員会を中心に、以下の3つの課題を当社の環境活動における重要課題として特定しました。

- 気候変動対策
- 地下水資源の保全
- 森林の保全

特定した重要課題への取り組みとして、2023年1月、2030年までの行動計画を定めた「霧島環境アクション2030」を発表しました。霧島環境アクション2030では、“地下水資源の保全”と“森林の保全”をひとつにまとめ、「気候変動対策」と「自然環境保全」の2軸で計画を作成しました。



霧島環境アクション2030

霧島環境アクション2030の具体策は以下の通りです。次ページより各具体策の進捗状況を報告します。

大項目	中項目	具体策
気候変動対策	【1】2030年度までに工場・事務所からのCO ₂ 排出量実質ゼロを実現	【1-1】バイオガスの最大限の有効利用
		【1-2】食品廃棄物の受け入れ
		【1-3】サツマイモ発電以外の再生可能エネルギー電気の導入
		【1-4】さらなる省エネルギー
	【2】製品ライフサイクル全体のCO ₂ 排出量の削減	【2-1】焼酎原料に係るCO ₂ 排出削減
		【2-2】社用車の電動化
【2-3】容器包装資材に係るCO ₂ 排出削減		
自然環境保全	【3】森林保全活動による森林の多面的機能の活用	【3-1】森林保全活動
	【4】地下水資源の有効利用	【4-1】蒸留温排水の有効利用

気候変動対策

【1】2030年度までに工場・事務所からのCO₂排出量実質ゼロを実現

【1-1】バイオガスの最大限の有効利用

当社には焼酎の副産物である焼酎粕や芋くずをリサイクルする、国内最大級の設備があります。

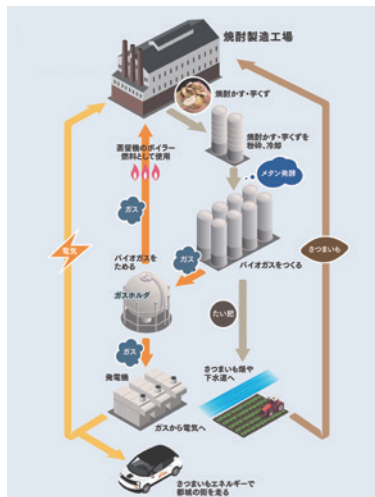
焼酎の蒸留工程で生じる焼酎粕は1日あたり約850トン、さつまいもの選別工程で生じる芋くずは1日あたり約15トンです。

焼酎粕リサイクルプラントでは、焼酎粕と細かく破碎した芋くずを混ぜ合わせ、微生物によってメタン発酵させることで、1日に約34,000立方メートルのバイオガスが生成されます。これは一般家庭約19,000世帯分の電力エネルギー(一般家庭の年間平均消費電力=4,175kWh、環境省)に相当し、工場のボイラー燃料として利用したり、発電設備で電気に変えたりしています。

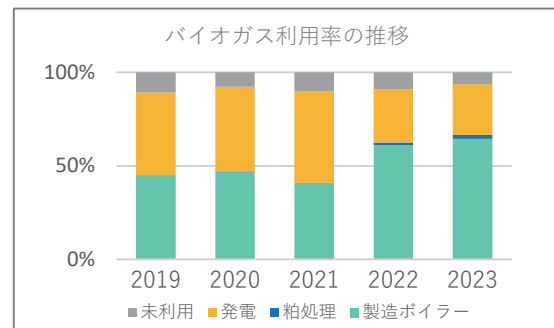
バイオガスによる発電事業を「サツマイモ発電」と呼んでいます。現在、発電電力の大部分は地域の電力会社に販売しています。

発生したバイオガスの利用率は2023年度は94%でした。

バイオガスを電気として使うよりも、熱として使う方がエネルギー効率がよいことから、2022年度にバイオガスボイラーの設置を2工場から3工場に増やしました。



これによりボイラー燃料としての使用量が32%増加し、都市ガス使用量を27%削減できました。今後も、バイオガス100%利用を目指して取り組みを進めていきます。



焼酎粕リサイクル活動のこれまでの歩み

焼酎粕は、かつて畑地へ肥料として農地還元し、一部は海洋投棄していました。

- 2002 地元の酒造会社等とともに、「霧島リサイクル協同組合」を設立
焼酎粕の飼料化、堆肥化を開始
- 2006 焼酎の増産に伴う焼酎粕量の増加に対応するため、鹿島建設(株)との共同研究の末、
焼酎粕リサイクルプラントを本社工場隣接地に建設
バイオガスは焼酎粕乾燥機の燃料として利用
- 2012 焼酎粕リサイクルプラントを増設
バイオガスを本社増設工場のボイラー燃料として利用開始
- 2014 バイオガスによる発電施設を設置し、「サツマイモ発電」を開始
- 2018 志比田第二増設工場隣接地に焼酎粕リサイクルプラントを建設
バイオガスは志比田第二増設工場のボイラー燃料として利用
- 2022 バイオガスを本社工場のボイラー燃料として利用開始



【1-2】食品廃棄物の受け入れ

地域課題を解決するとともに、バイオガスの発生量を増やす取り組みとして、地域の食品廃棄物を焼酎粕リサイクルプラントへ受け入れています。

2022年度から、柳田酒造合名会社、大浦酒造株式会社より焼酎粕を、冷凍甘藷の加工・保管を委託している株式会社ニチレイ・ロジスティクス九州より芋くずを受け入れています。

2023年度から、当社の「焼酎の里 霧島ファクトリーガーデン レストラン」で発生する調理残渣や食べ残しの受け入れを始めました。



気候変動対策

【1】2030年度までに工場・事務所からのCO₂排出量実質ゼロを実現

【1-3】サツマイモ発電以外の再生可能エネルギー電気の導入

2011年度より本社増設工場に100kWの太陽光発電設備を導入し、工場の電力として利用しています。現在、新たな再生可能エネルギー電気の導入や購入を検討しています。



【1-4】さらなる省エネルギー

これまで当社は15年以上にわたり、様々な省エネルギー活動を行ってきました。

2023年度は、一部の給排気ファンを気温により運転制御できるようにしました。また、ボイラー給水にこれまでも蒸留温排水を利用していましたが、その利用率を増やすよう調整し、ボイラー燃料の使用量を削減しました。

蒸留温排水の熱利用

蒸留冷却工程では、副次的に約80℃の温水が発生します。

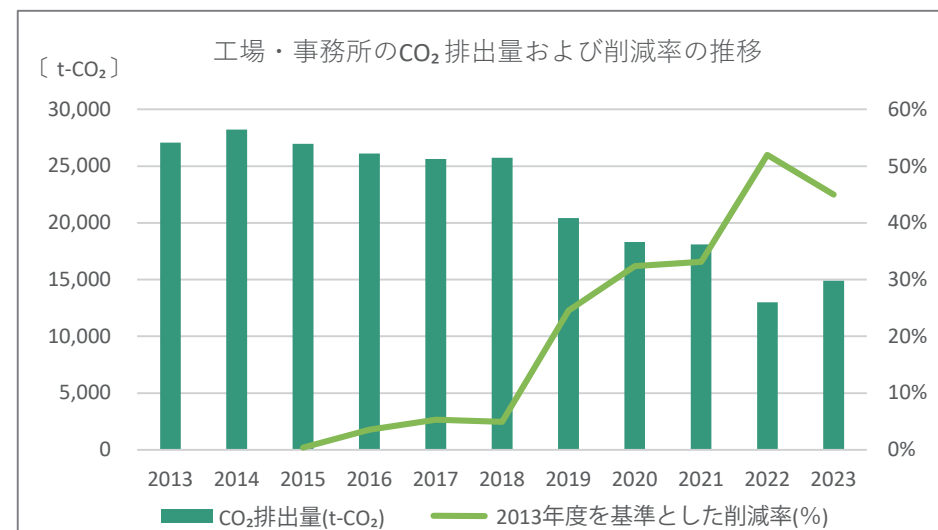
これをボイラーの給水に利用することで、燃料使用量を約6%削減しています。また、蒸留温排水は焼酎粕リサイクルプラントの加温、事務所や工場内、霧島さつまいも種苗生産センター「イモテラス」の暖房熱源としても利用しています。これによりイモテラスでは都市ガスを53%節約できました。



2030年度に向けた取り組み

当社は工場・事務所のCO₂排出量を2030年度までに実質ゼロにするという目標を掲げています。

これまでに挙げた取り組みを深化させることにより、2030年度のCO₂排出量は2013年度比で約25%になる見込みです。残る排出量は、地域の森林由来のJ-クレジット等を用いたオフセットにより実質ゼロを実現します。

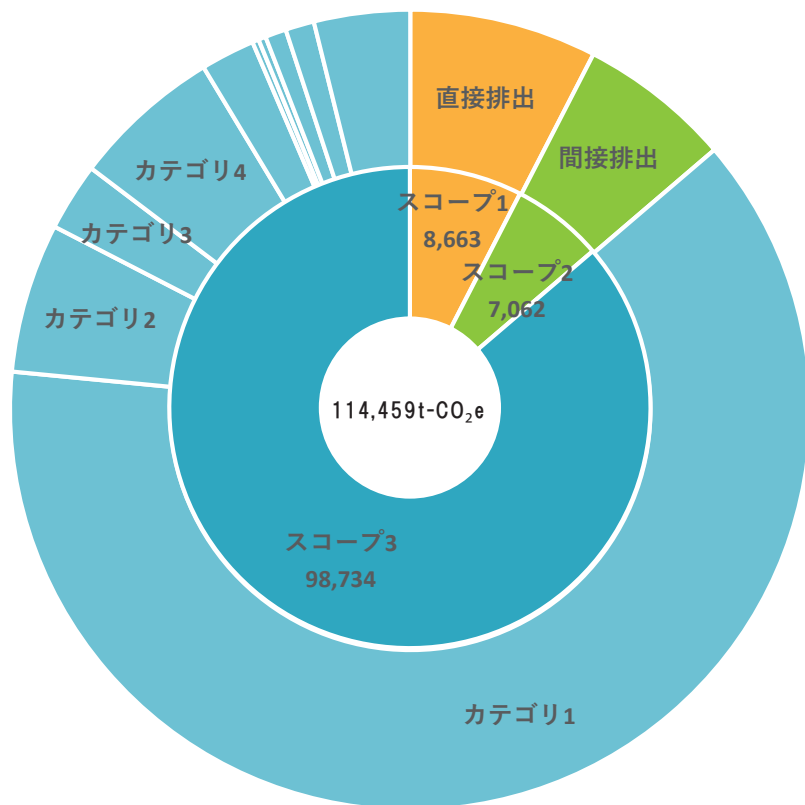


※2020年度以降の排出量の減少理由のひとつに、サツマイモ基腐病を主要因とする原料不足により生産活動が縮小したことが挙げられます。2023年度の排出量増加は、生産量の回復と購入電力のCO₂排出係数の上昇によるものです。

気候変動対策

【2】製品ライフサイクル全体のCO₂排出量の削減

2023年度温室効果ガス排出量



GHGプロトコルに則った当社の温室効果ガス排出量を算出し、2024年3月に2021年度の排出量について第三者検証報告書を受領しました（P.18に掲載）。上図の2023年度排出量は、検証を受けた方法に基づいて自社で算出したものです。

2023年度温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)		
スコープ1	直接排出	8,663
スコープ2	間接排出	7,062
スコープ3	自社以外のサプライチェーンにおける間接排出	98,734
【スコープ3】内訳		
カテゴリ1	購入した製品・サービス	71,869
カテゴリ2	資本財	6,917
カテゴリ3	スコープ1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	3,144
カテゴリ4	輸送、配送（上流）	6,917
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	2,506
カテゴリ6	出張	299
カテゴリ7	雇用者の通勤	342
カテゴリ9	輸送、配送（下流）	974
カテゴリ11	販売した製品の使用	1,328
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	4,438

※霧島ホールディングス株式会社は算定範囲に含まれていませんが、霧島酒造株式会社から切り離せない部分（事務所の電力など）は含まれています。

気候変動対策

【2】製品ライフサイクル全体のCO₂排出量の削減

【2-1】焼酎原料に係るCO₂排出削減

製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量の多くを占める焼酎原料調達段階（米生産、さつまいも生産、冷凍甘藷加工・保管）の排出削減は難しい課題です。

米やさつまいもの栽培については、外部の研究機関や協力して下さる生産者とともに、温室効果ガスを抑制できる栽培方法の調査を行っています。具体的には水田のメタンガス発生を抑制できる中干し期間（※1）の延長や、生分解性マルチシートの使用、バイオ炭の施用について調査しています。

※1 水稲栽培において、稲の生長を調節するために一時的に水を抜いて水田を干す期間のこと。

冷凍甘藷の加工・保管については、委託会社にアンケート調査を行い、取り組み状況の聞き取りを行っています。



【2-2】社用車の電動化

2021年にサツマイモ発電の電力を主電源とした社用EV（電気自動車）を「さつまいもEV e-imo（以下e-imo）」と名付け、4台導入しました。

都城市との包括連携協定に基づき、災害発生時には避難所等へe-imoを通して電気エネルギーを提供します。



その他の社用車も、2030年度までに100%電動化（※2）するという目標を定めています。2023年度にはソーラーカーポートを2台分導入しました。現在の電動化率は30.8%です（2023年度末時点）。

※2 バッテリーに蓄えた電気エネルギーを動力のすべてまたは一部として使って走行する自動車。電気自動車（BEV）、プラグインハイブリッド車（PHEV、PHV）、ハイブリッド車（HEV、HV）、燃料電池車（FCEV、FCV）の4種が該当する。

【2-3】容器包装資材に係るCO₂排出削減

2021年度より、「人にも地球にもやさしい」パッケージの実現に向け、環境と品質など多面的側面から容器包装資材の改善に取り組む社内横断プロジェクトを発足させ、CO₂排出削減を目指しています。

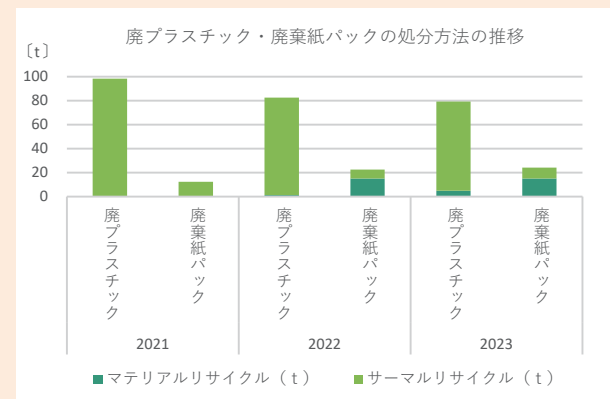
廃棄物処理における取り組み

当社で発生する廃プラスチックは、2018年の中国の輸入規制以降、全てサーマルリサイクル（※3）を行っていましたが、2022年度よりマテリアルリサイクル（※4）への転換を進めています。2023年度は廃プラスチックの6.1%を再生プラスチックへとリサイクルしました。

※3 廃プラスチックを固形燃料化したり焼却の際に出るエネルギーを回収利用すること。

※4 廃プラスチックを破砕して再生プラスチック原料をつくり出すこと。

当社の紙パックには品質保持のためアルミニウムが使われており、リサイクルするためには特殊な技術が必要です。2022年度より、当社で発生する廃棄紙パックの一部をリサイクル工場に搬出して古紙へとリサイクルしています。2023年度は当社で発生する廃棄紙パックの62.1%をリサイクルしました。



気候変動対策

【2】製品ライフサイクル全体のCO₂排出量の削減

物流における取り組み

(1) 出荷センターの設置

従来は全国の納品先に積み合わせトラックで輸送していましたが、全国9カ所（宮崎、福岡、岡山、大阪、愛知、東京、千葉、宮城、北海道）に出荷センターを設置し、センターから納品先への配送に、一部、共同配送（※1）を利用しています。

(2) 鉄道・海上輸送へのシフト

従来、出荷センターまでの製品輸送はトラック輸送が大半を占めていましたが、輸送にかかるCO₂排出量抑制のために、鉄道コンテナ輸送や船舶輸送によるモーダルシフト（※2）を進めてきました。この取り組みにより2016年よりエコレールマーク（※3）を取得しています。2022年までに九州外へ向けた輸送は全て鉄道コンテナまたは船舶を利用した輸送に切り替えました。

※1 複数の会社の荷物を共同で配送すること。積載率が上がり、輸送効率が高まる。

※2 CO₂排出量の多いトラック輸送から、排出量の少ない鉄道や船舶輸送に切り替えること。

※3 CO₂排出量の少ない鉄道貨物輸送に取り組んでいる企業や商品が認定された環境ラベルのこと。



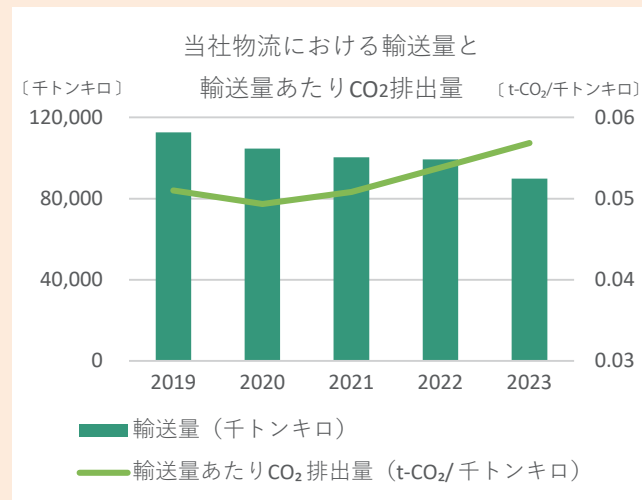
(3) 輸送車両の大型化と積載率のアップ

使用する輸送車両の大型化や積載率のアップにより輸送効率の向上を図っています。



(4) 原料輸送に係るCO₂排出量の抑制

焼酎原料であるさつまいもは100%九州産を使用し、原料米も地元宮崎産の使用量を増やすことにより、原料輸送に係るCO₂排出量を抑えています。また、冷凍甘藷の加工にあたり、ほ場から当社を經由して加工会社に運搬していましたが、2023年度から、一部はほ場から直接加工会社に運搬することで輸送距離の削減に取り組んでいます。



自然環境保全

【3】 森林保全活動による森林の多面的機能の活用

【3-1】 森林保全活動

当社が森林保全活動に取り組む理由は、地域環境の保全、水源涵養、気候変動への対策など多岐にわたります。焼酎造りには清浄でおいしい水が必要です。当社は地域とともに育ってきた会社であり、地域や地球への恩返しという意味を込めて活動しています。

「霧島くつろぎの森」の保全活動

2010年に、宮崎県の「企業の森林づくり事業」に参加し、都城市山田町に6ヘクタールの市有林を借りて、植林活動を始めました。

社員が参加し、生い茂っていた竹や雑草を伐採し、ケヤキやクヌギなどの広葉樹を植林しました。植林後も豊かな森林の形成のため、下草刈り作業を行い、今では植生の豊かな美しい森に育っています。さらに、子供たちに自然の大切さを伝える自然学習の場としています。



2010年の植林時の様子



現在の様子

「どんぐり1000年の森をつくる会」の活動への参加

2004年よりNPO法人「どんぐり1000年の森をつくる会」の植林活動に賛同し、どんぐり株の購入・寄付や植樹会への参加を行っています。毎年、会社、社員や労働組合がどんぐり株を購入し、植林や森を維持するための資金として寄付しています。2024年3月に行われた植樹会には従業員とその家族が約80名参加しました。

どんぐり1000年の森をつくる会

1996年から都城市を中心に活動している会です。毎年、どんぐり株主を募り、集まった資金で大淀川上流域の国有林等にどんぐり（シイ・カシ）の苗木を植えて、植生豊かな自然林の再生に取り組んでいます。2023年度までに72ha、約18万本のどんぐりの木が植林されています。



容器包装資材やその他紙製販促物等における取り組み

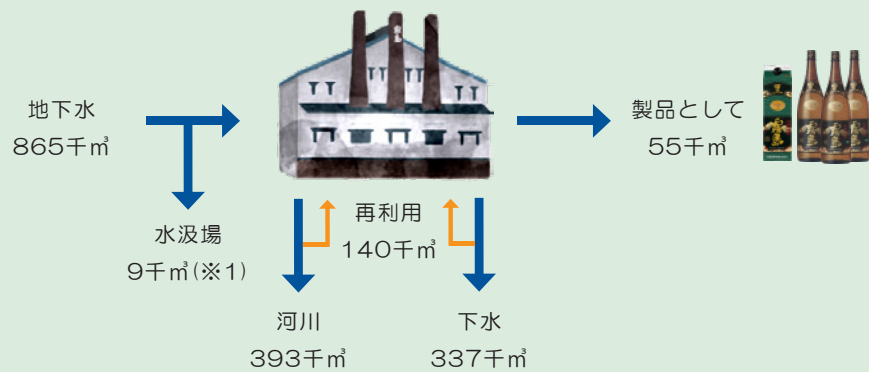
2023年度より容器包装や販促物などに用いる紙製素材として、適切な森林管理から生まれる紙製品を採用しています。

自然環境保全

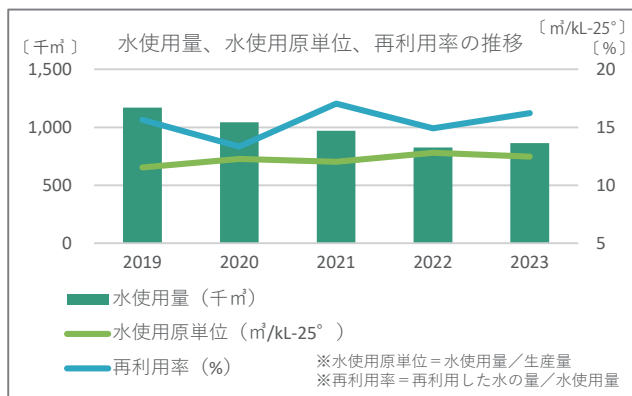
【4】地下水資源の有効利用

当社で使用する水は全て「霧島裂罅水（キリシマレッカスイ）」と呼んでいる地下水です。都城盆地には豊富な地下水が蓄えられていますが、できるだけ無駄づかいせず大切に有効利用すべきと考え、水の再利用に取り組んでいます。また、使用後の水は適切な排水処理を行った後、法令に定められた基準を満たした状態で河川または下水に排水しています。

水収支(2023年度) ※蒸発や貯酒タンクでの貯留期間等もあるため、収支は釣り合いません。



※1 近隣の方に「霧島裂罅水」を無償提供しています。



【4-1】蒸留温排水の有効利用

蒸留工程で冷却に使用した水（蒸留温排水）は、工場ボイラーの給水に再利用しています。高温の蒸留温排水を給水することにより、燃料消費も抑えられます。

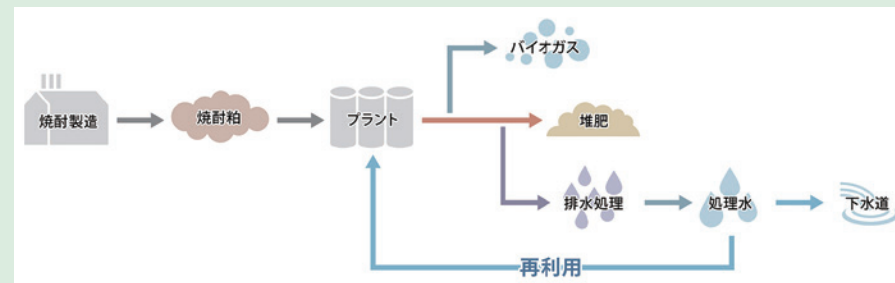


蒸留温排水は、製品輸送用パレットの洗浄や、工場内の設備の洗浄などにも再利用しています。



焼酎粕から取り出した水の再利用

焼酎粕リサイクルプラントでメタン発酵後に残ったものを固体と液体に分離し、その液体分を浄化した後、1日約100m³をプラント内で再利用しています。



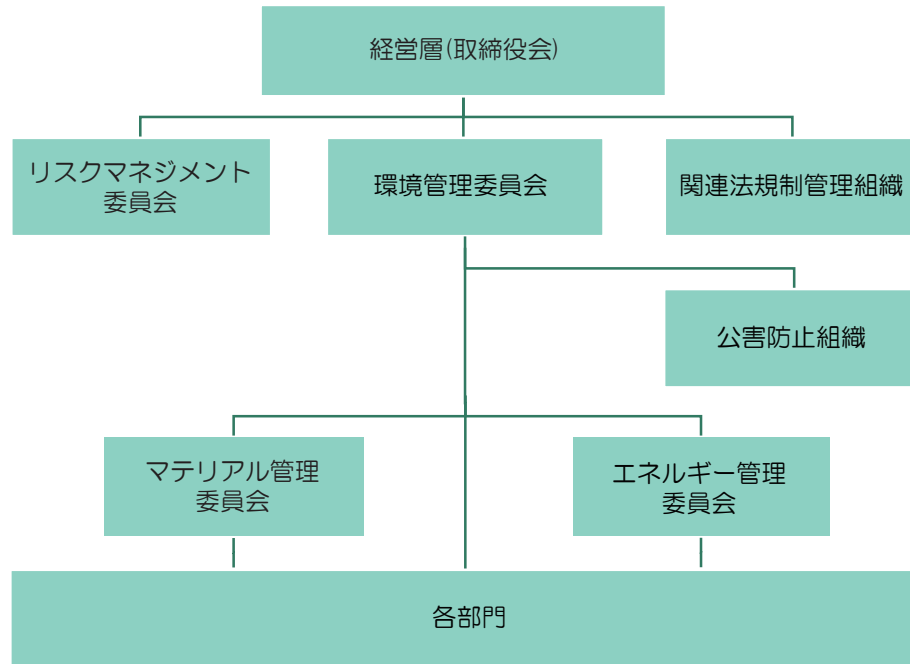
環境マネジメントシステム

当社はISO14001に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、2000年以降、継続してISO14001の認証を取得しています。

認証取得範囲

- ・霧島ホールディングス株式会社
- ・霧島酒造株式会社 本社工場および志比田工場（各営業支店は除く）

環境マネジメント体制



経営層(取締役会)	環境方針の承認 全社環境目標の承認 実施及び管理に必要な経営資源の配備 環境マネジメントシステムの見直し 環境管理責任者の任命 など
リスクマネジメント委員会	リスクマネジメントの枠組みの構築及び運用 緊急時における危機対策本部設置までの緊急時対応の検討、実施
関連法規制管理組織	事業活動に係る関連法規制の情報収集及び遵守の管理
環境管理委員会	環境マネジメントシステムの確立・運用・維持・改善 全社環境目標の策定、進捗管理 環境マネジメントシステムの内部監査の管理 霧島環境アクション2030に沿った活動の推進
マテリアル管理委員会	製品ライフサイクルCO ₂ 排出量の削減 廃棄物と資源の有効利用に関する社内の法的支援業務
エネルギー管理委員会	工場のCO ₂ 排出量の削減 エネルギー使用量および水使用量の削減 上記に関する社内の法的支援業務
公害防止組織	公害防止管理

環境データ

エネルギー使用量		2021年度	2022年度	2023年度
電気				
買電	MWh	18,114	16,773	17,087
サツマイモ発電	MWh	1,473	972	870
太陽光発電	MWh	88	70	46
熱				
都市ガス	GJ	228,850	159,068	168,234
LPガス	GJ	1,496	1,699	1,868
軽油	GJ	171	279	227
ガソリン	GJ	38	10	14
バイオガス	GJ	67,412	83,895	89,270
再生可能エネルギー利用率				
電気	%	—	—	33.9
熱	%	22.6	34.2	34.4

※2021年度、2022年度は買電の再エネ比率が不明のため算出していません。

サツマイモ発電実績		2021年度	2022年度	2023年度
発電量	MWh	7,459	3,632	3,604
売電量	MWh	5,986	2,660	2,734

廃棄物		2021年度	2022年度	2023年度
自社内での再利用率				
焼酎粕・原料屑	t	166,611	133,433	136,288
レストラン残渣	t	0	0	4
社外への排出量				
排出量	t	13,382	10,769	11,852
再資源化量	t	13,370	10,755	11,837
再資源化率	%	99.9	99.9	99.9
大気汚染物質排出量		2021年度	2022年度	2023年度
NOx	t	16.7	7.2	7.7
SOx	t	<0.01	<0.01	<0.01

関連法規制等からの逸脱

2023年度は罰金・罰則を伴う法規制違反はありませんでした。



化学物質

2023年度はPRTR法に基づく届出対象となる有害化学物質はありませんでした。

水質汚濁

水質汚濁防止法、下水道法、宮崎県条例に基づき、内部基準を定めて管理を行っています。

(参考)温室効果ガス排出量 検証報告書

温室効果ガス排出量 検証報告書

2024年3月21日

霧島酒造株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 平川 雅宏

1. 検証の対象及び目的

霧島酒造株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2021年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の以下のGHG排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

- 1) スコープ1 GHG 排出量
 - ・算定対象において使用された都市ガス、LPG、軽油、ガソリンに伴って直接的に排出されるCO₂排出量
 - ・算定対象において使用されたフロンガス漏洩に伴って排出されるGHG排出量
- 2) スコープ2 GHG 排出量
 - 算定対象において電力の使用に伴って間接的に排出されるCO₂排出量
- 3) スコープ3 GHG 排出量
 - 算定対象の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 11, 12^{※2}において排出されるCO₂排出量

検証の目的は、事業者のGHG排出量情報が算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者であり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。


2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載のGHG排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG排出量の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

温室効果ガス排出量 検証報告書(21/Mar./2024)	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22	頁数	1 / 2
----------------------------------	---	----	-------

温室効果ガス排出量 検証報告書(21/Mar./2024)	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22	頁数	2 / 2
----------------------------------	---	----	-------



3. 検証の結論

算定報告書に記載されたGHG排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ1	11,695
スコープ2 ^{※4}	6,755
スコープ3 ^{※5}	90,745
スコープ3 内訳	
カテゴリ1	65,040
カテゴリ2	4,038
カテゴリ3	3,902
カテゴリ4	7,041
カテゴリ5	2,810
カテゴリ6	55
カテゴリ7	378
カテゴリ9	1,247
カテゴリ11	1,542
カテゴリ12	4,692

NOTE:

- ※1: 算定対象：霧島酒造株式会社 計16拠点他
 - ・工場（5拠点）：本社工場、本社増設工場、志比田工場（霧島ファクトリーガーデンを含む）、志比田増設工場、志比田第二増設工場
 - ・営業支店、駐在所（11拠点）：東京支店、大阪支店、福岡支店、宮崎支店、仙台駐在、名古屋駐在、広島駐在、熊本駐在、大分駐在、延岡駐在、沖縄駐在
 - ・その他：西側倉庫、屋外広告物
- ※2: スコープ3のカテゴリ1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 11, 12
 - カテゴリ1（購入した製品・サービス）：原材料、資材、広告、サービス等、及び、主要な間接経費を対象
 - カテゴリ2（資本財）：建設、購入した資本財を対象
 - カテゴリ3（スコープ1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）：使用した燃料、電力を対象
 - カテゴリ4（輸送、配送（上流））：
 - 購入した容器包装資材の自社への輸送と自社が荷主の商品の国内出荷、工場間転送及び保管を対象
 - カテゴリ5（事業から出る廃棄物）：産業廃棄物、一般廃棄物、下水を対象
 - カテゴリ6（出張）：従業員の公共交通機関利用による出張を対象
 - カテゴリ7（雇用の通勤）：従業員の所属拠点への通勤を対象
 - カテゴリ9（輸送、配送（下流））：国内出荷物流のうち自社が費用負担していない物流を対象
 - カテゴリ11（販売した製品の使用）：国内にて販売した商品の飲用時に使用する水、お湯を対象
 - カテゴリ12（販売した製品の廃棄）：国内にて販売した商品の容器包装資材の廃棄を対象
- ※3: スコープ1, 2, 3の算定方法：「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（ver.2.4）」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（ver.3.2）」、及び、事業者が作成した「算定ルール」
- ※4: 電力の排出係数：電気事業者別基礎排出係数を使用
- ※5: スコープ3の値(t-CO₂e)は各カテゴリの小数点以下も含めた合計値

以上

温室効果ガス排出量 検証報告書(21/Mar./2024)	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22	頁数	2 / 2
----------------------------------	---	----	-------